

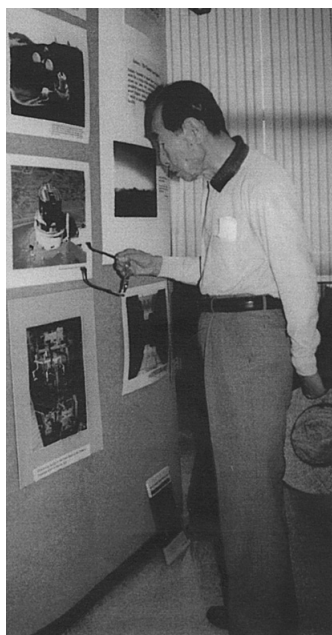
虎尾正久先生の追想

飯島重孝 (元 国立天文台)

虎尾先生は東京天文台に写真天頂筒を導入建設された。これは天頂近くを通過する赤経値既知の恒星を、標準時計の秒信号に応じて写真乾板上に撮影し、この乾板上の星像位置をコンパレーターで測定して恒星の子午線通過の時刻から平均太陽時を求める仕組みであった。

1960年頃、私は東京工大の古賀逸策先生の研究室で水晶時計の研究を続けていた。郵政省から借り上げていた専用の電話回線で、この水晶時計から取り出される1kHz交流信号を東京天文台、天文時部の報時研究課へ送って、台内の水晶時計を駆動し、この時計面時刻が他の数台の台内水晶時計と相互比較されていた。

その後、私は縁あって東京天文台の天文時部報時研究課に移り、さらに水晶時計を導入して水晶時計システムを強化した。虎尾先生からは種々ご懇篤なご教示を頂戴した。当時、天文台長は萩原先生、天文時部長は宮地先生であった。



ハワイ、ヒロ観測所にて (1999年)



虎尾正久先生 (1991年満81歳)

略歴

1909年 8月20日生
 1933年 東京帝国大学理学部天文学科卒業
 1935年 東京天文台入台
 1957年 東京大学東京天文台助教授
 1962年 東京大学より理学博士
 1963年 東京大学東京天文台教授
 1963年-65年 天文学会副理事長
 1970年 東京大学を定年退職
 東京理科大学教授
 1974年 東洋大学教授
 2005年 12月21日 逝去 (96歳)



虎尾先生とお嬢さま